

不^〇可^〇測^〇。歷覽史籍所記未有高於此山者也。〔中略〕此文に其高不可測と有ど、諸書に或は直に立れば、地平より二十二町許りの直徑なりとぞ、

〔李花集下〕うきしまが原をとをりて、車がへしといひし所より、甲斐國に入て、信濃へと心ざし侍

しに、さながら富士の麓を行めぐり侍しかば、山の姿いつかたよりもおなじやうに見えて、誠にたぐひなし、すその、秋のけしき、まめやかに心こと葉もをよびがたくおぼえ侍て、

北になし南になしてけふいくかふじの麓をめぐりきぬらん

〔和漢三才圖會五十六〕富士山降土、南西駿州、東北相州、北西甲州、巽略、跨豆州、

三國無雙名山、關八州望之、其形不異、蓋其嶺如八葉蓮花、故所向三峯、而甚嶮也、譬以十本骨摺扇、中

折摺一間、爲九本骨倒之、形能彷彿焉。〔自箱根見之五峯、自江尻見之三峯也、

〔袖中抄七〕ふじのなるさは

さぬらくはたまのをばかりこふらくはふじのたかねのなるさはのごと

顯昭云、ふじのなるさはとは、ふじのやまのみねに、いけのごとくにおほきなるさはあり、その

水と火と相劇して、けふりと水氣と相和して、たちのぼる、火もえ水のわきかへるをと、つねに

たえず、されば鳴澤とは申と云々。〔中略〕

童蒙抄云、なるさはとは、ふじのやまのうへにあり、つねにながれてをとたえせぬなり、さぬら

くはとは、すこしぬることはたまのをばかりにて、こふることはさはのごとくにたえずとよ

めるなり。〔中略〕

古老傳云、山に神ます、淺間アサマの大神となづく、いたゞきの上に、平地一里許、中央の外にして、體こ

しきをかしくがごとし、こしきのそこに神池あり、池のなかに大石あり、石體あやしくてうす

くまれるとらのごとし、そのこしきのなかに、つねに氣あり、その色純青也、そこをみれば湯の